

JCATA第7回学術大会

# 「“感じる”を知る

## 見える化するクリエイティブ・アーツ」

ハイブリッド  
開催



「今ここで起こることを五感で感じる」ということがクリエイティブ・アーツセラピーの魅力であり可能性なのだとしたら、感じることに向き合いひもといっていく先には、多くの学びの種があるのではないのでしょうか。

本大会では、“感じる”を知るをテーマに、クリエイティブ・アーツセラピーの中で生じるプロセスを見える化する試みについて、さまざまな角度から考えます。感じることを知ろうとする取り組みの中から、私たちは何をつかみ、何を学ぶでしょうか。みなさんと分かちあいたいと考えています。

日時

2023年 **11月19日** (日)

時間

9:30~16:15

対面参加 受付開始9:00

会場

名古屋音楽大学 または オンラインZoom

午前(9:30-12:15)

9:30-10:30

シンポジウム **ハイブリッド**

「『芸術の知』による研究：アーツベイスト・リサーチ (ABR)」

尾上明代(立命館大学)/ 鈴木琴栄(同志社女子大学)

10:45-12:15 (どちらか選択)

①ワークショップ **対面のみ**

「体現と知：身体・動き・ダンスによる探求」  
神宮京子 (特定医療法人群馬会群馬病院)

②ミニ体験&オープンカフェ **ハイブリッド**

「語らう場とクリエイティブなプロセスによる  
“感じるを知る”」

狩谷美穂(MUSIC POWER for ALL.)

午後(13:30-16:15)

13:30-15:30 演題発表 (どちらか選択)

分科会I「事例から考える」 **対面のみ**

①ありのままにいられる場所(音楽療法)がもたらした  
もの~音楽と言葉による表現と、バリテーション(承認)  
から生まれたプロセス~

②ASDと知的発達症を併せ持つ中学生男子の事例  
~アートの冒険し“自閉”と“普通”の壁を乗り越える  
共同作業~

分科会II「ドラマを用いた実践」 **ハイブリッド**

①感情「で」理解する~小学校での即興演劇実践~

②自立訓練事業所でのドラマセラピー

~重複(知的障害・聴覚障害)障害の男性を中心に~

③ABRでみえたもの~ドラマを織り込んだ2つの研究から~

15:45-16:15 全体会 **ハイブリッド**

◆2023年9月20日より申込受付開始

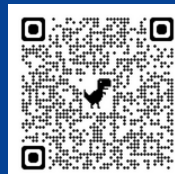
参加の  
お申込み

大会参加をご希望の方は、WEBフォームにてお申込みください

【参加費】5,000円(会員) 8,000円(非会員)

【主催】一般社団法人日本クリエイティブ・アーツセラピー学会

 www.jcata.org



# 大会プログラム(午前)

9:30-10:30

ハイブリッド

## シンポジウム「『芸術の知』による研究：アーツベイスト・リサーチ (ABR)」

尾上明代(立命館大学)、鈴木琴栄(同志社女子大学学芸学部音楽学科) 司会:倉石聡子 (アップコンセプト)

ABRは、芸術活動をプロセスに組み込み、その芸術を通して探究する研究法です。「言葉によらない知、体感から獲得する知、論理的思考でなく、右脳の思考と直接対話すること (Malchiodi, 2018)」が特徴であり、これは、まさに芸術を通して自己や他者を探索するCATSにおいて実践されてきたことと本質的に同じと言えるでしょう。日本におけるABRの現状と、立命館大学大学院での授業を紹介しながら解説します。CATS体験と同様に重要な研究の視点を提供できればと思います。(尾上)

感覚はすでに知そのものである。療法のモダリティーとしてアーツを用いてきた所以でもあるが、知の探究=研究においては、言語・文章化の必然性が憚り、CATの本質を伝えられないジレンマを抱えてきた。ABRには、CATの媒体としてのアーツを、研究の中心に据えることで、私たちのアイデンティティーの核を取り戻していく可能性がある。そうした研究の取り組みを共有しながら、ABRの可能性と課題について考える機会にしたい。(鈴木)

10:45-12:15 (対面参加の方はどちらか選択)

対面のみ

### ワークショップ

定員12名

「体現と知：身体・動き・ダンスによる探求」

神宮京子 (特定医療法人群馬会群馬病院)

クリエイティブ・アーツが誘う混沌とした未分化な感覚がもたらす意味は、アーツ体験によってこそ真に知ることができる。身体の内にも宿り動き出す心の断片をとらえ、“体現”していくプロセスは、身体や経験に刻まれた暗黙の“知”に光を注ぎ、その姿を浮き彫りにする。脳科学やトラウマ研究が示すように、身体感覚は人の関係的根源に深く関与する。4年ぶりの対面大会というこの機会に、生身の出会いによって見えてくる世界を探ってみたい。

ハイブリッド

### ミニ体験&オープンカフェ

「語らう場とクリエイティブなプロセスによる“感じるを知る”」

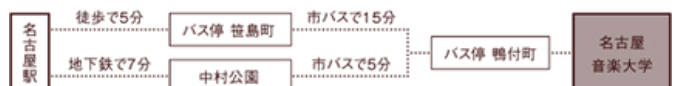
狩谷美穂 (MUSIC POWER for ALL.)

二人のシンポジストによるABRについてのプレゼンテーションを受けての感想や疑問、そして率直な意見をオープンに語り合えるカジュアルな交流の場をハイブリッドにて提供する。ABRの自由で豊かな表現とその可能性、そしてauthenticityをより深く理解するためのミニ体験とディスカッションを通してクリエイティブなプロセスから感じる“なにか”を「感じるを知る」をテーマに参加者同士が語り合う開かれた交流の機会にしたい。

## 対面会場のご案内 名古屋音楽大学

JR名古屋駅から

- バス停「笹島町」から市バス栄24号系統「稲西車庫」行きで15分、「鴨付町」下車すぐ。
- 地下鉄東山線「高畑」行きで7分、「中村公園」下車。中村公園バスターミナルから市バス中村13号系統「稲西車庫」行きで5分、「鴨付町」下車すぐ。



対面参加の会場について：

- 受付は、9:00よりB303教室前にて行います。
- 会場は、B303教室とC302教室です。選択したプログラムによって会場が異なりますので、当日受付にてご確認ください。
- 昼食時は会場の教室またはロビーにて飲食が可能です。



# 大会プログラム(午後)

13:30-15:30 演題発表 \*本学会会員による研究発表 (対面参加の方はどちらか選択)

対面のみ

## 分科会I「事例から考える」 定員20名

①ありのままでいられる場所(音楽療法)がもたらしたもの  
～音楽と言葉による表現と、バリデーション(承認)から生まれたプロセス～

発表者：長江朱夏(名古屋音楽大学)  
丹羽裕紀子(愛知みずほ短期大学)  
柴田恵美(医療法人社団洛和会洛和会京都音楽療法研究センター)

本研究は、知的障害のある20代女性2名が、ノードフ・ロビンズ音楽療法を通して、音楽による自己表現を体験し、体験を重ねたことによって、日常生活においても自分の思いを表現できるようになった事例である。発表では、そのプロセスとして、音楽、言葉、関係性、バリデーション(承認)について検討する。発表に際して対象者も発表者として壇上にあがり、語る場を設け、その意義について学ぶ。

②ASDと知的発達症を併せ持つ中学生男子の事例  
～アートで冒険し“自閉”と“普通”の壁を乗り越える共同作業～  
発表者：平良久美(JIPATT)

“普通”を求められるASDと知的発達症を併せ持つ中3男子のアートの道のりを紹介する。臨機応変な対応や初経験への困難性が強く日常生活で回避・逃避行動を繰り返していた男子が、放課後等ディサービスでのセッションにて安心・安全な空間の確保と様々なモチーフ・素材・表現方法の探索・挑戦を行い、また他者との交流や相互理解、周囲への働きかけなどを通し、豊かな心の世界の構築を目指している。

ハイブリッド

## 分科会II「ドラマを用いた実践」

①感情「で」理解する～小学校での即興演劇実践～  
発表者：田中淳士(NPO法人ステップス)

小学校で総合学習の時間に行っている年10回の即興演劇の授業の実践報告。どんなアイデアでもお互いに批判しない空間作りを行っても、なお「何をやっていいかわからない」「難しい」と固まってしまう児童がいる。その中で、インプロのお題に「感情」を入れたら、心も身体も自由に動き出した事例を発表。

②自立訓練事業所でのドラマセラピー  
～重複(知的障害・聴覚障害)障害の男性を中心に～  
発表者：宇野寛子(プレイフルネスUNO)

引きこもりからの回復目的で自立訓練施設を利用している重複(知的障害・聴覚障害)障害の男性A氏50代を中心に表現力の向上を目的にドラマセラピーの実践報告をする。また、ドラマセラピーのスタッフ(施設職員)へのインタビューを実施し、そこから要素を抽出することで、ドラマセラピーがA氏の表現力向上につながったのかを検証する。

③ABRでみえたもの  
～ドラマを織り込んだ2つの研究から～  
発表者：足立典子(京都府亀岡市立亀岡川東学園SC)  
滝口鈴菜(フリーランス)

ABR (Arts-Based Research) は、アートを用いた実践的研究です。私たちは、ドラマを通じて感じ、表現することから生まれたものを探り、見えてくるものを言語化し、さらに新たなものを感じ生み出すという試みを行いました。足立は、子どもたちとのドラマ活動について、成長したメンバーと共に、表現と語り合いを通して振り返り、滝口は、対象者が選んだ人生の1曲の歌詞とインタビューをもとに、新たな演劇を創作しました。研究から見えた、ABRの持つ意味と可能性をお伝えします。

15:45-16:15 全体会

ハイブリッド

一日かけて受け取ったインプットをプロセスする時間を、今回は「音」を通して行います。グループ即興の中で、自らも音を発しながら、そして周囲に鳴り響く音を聴きながら、感覚から知をたぐり寄せたり、知を感覚に落とし込んだり、新しい気づきを得ながら学びを確かめあい、グループとシェアしましょう。

本大会ご参加にあたって(お申込前にご確認ください)

・参加者の都合による参加費の返金はできません。オンラインから対面、対面からオンラインへの変更はメールにて承ります。conference2023@jcata.orgまでご連絡ください。

・対面参加を選択された方は、事前にプログラムの選択が可能です。対面プログラムには定員があるため、申込順となりますのでご了承ください。

・本大会にご参加にあたり、守秘義務の遵守、録画・録音・撮影の禁止、プライバシーの配慮等に同意の上で、お申込みください。